

● 経済用語・データのいみ ●

## 「パーパス経営」

昨今、新聞や経済誌などで「パーパス」というキーワードをよく目にします。  
今回は、ビジネスの世界で注目を集める「パーパス経営」について説明します。

### 1. パーパス経営とは

パーパス (Purpose) は、直訳すると「目的・意図」を指す言葉ですが、ビジネスの世界においては、社会に対する「志」または「存在意義」を意味することが一般的です。このパーパスを軸にして企業活動を行い、社会に対して貢献していくことを「パーパス経営」といいます。

### 2. 注目される背景

近年、パーパス経営が注目される背景の一つとして、SDGs や脱炭素といった社会問題に対する世界的な意識の高まりによって、消費者の価値観が変化したことが挙げられます。エシカル消費と呼ばれる社会や環境に配慮した消費行動がその一例といえます。

また、ミレニアル世代 (1980~1990年代前半生まれ) 以降の人たちは、消費行動に限らず、就職先の選定においても企業の社会的な取り組み、仕事における自身の存在意義 (働きたい) を重視する傾向が強いといわれ、人材確保の面において雇用条件などの待遇面と同等に重要なテーマになりつつあります。さらに、投資家の間でも環境・社会・ガバナンスを重視した ESG 投資が世界的に広まっています。

このような背景に加え、不安定な国際情勢、度重なる自然災害、コロナ禍などによって、レジリエンス (困難に対する回復力・復元力・しなやかさ) を高めるため、利益追求型の経営からパーパス重視の経営にシフトする企業が増加しています。

### 3. パーパス経営の特徴

パーパス経営の一番の特徴は、志・存在意義といったパーパスを経営・事業の最上位または中心に置き、実現したい未来に向けて、企業活動や社員の働きの原動力とするものです。従来から「社会貢献」といった視点が企業理念や経営ビジョンの中に組み込まれているケースも少なくありませんが、その多くは CSR の視点で顧客・投資家などのステークホルダーを対象に企業活動の一部で取り込まれる施策などが多いと考えられます。

「この指とまれ」と掲げたパーパスに誇りをもって働く人材が集まり、さらに志を共有する消費者・取引先・地域の人々などが共鳴していくことで、急激な環境変化に対するレジリエンスを強化し、SDGs など社会全体の課題解決を実現することが期待されます。

## 閑話ひとつ

昨今、「顔認証」という技術が生活のあらゆる場面で目にするようになってきています。

「顔認証」のシステムは、多層の人工ニューラルネットワーク (= 神経網) を用いたディープラーニング (= 深層学習) の技術により、カメラに写った顔画像をデータベースと照合することにより識別する人工知能 (= AI) の典型です。

プライバシーとの関係から、これを犯罪捜査などに活用することの是非については様々な議論が継続されていますが、すでにオフィスや会員制フィットネスジムなどへの入退室管理に加え、スマートフォンの本人認証等にも活用されており、今後は買物のレジや駅の改札において、電子マネーに代わって「顔で決済」という時代が、もう間もなく到来しそうです。たしかに、財布やスマホは家に忘れて外出してしまうこともありますが、「顔」を忘れて外出することはありませんね。

こうした AI の進歩は、すでにヒトの脳を超える領域に達していると言われますが、あくまでも AI を使いこなすのはヒトの脳であることを忘れてはなりません。AI と共存しながら豊かな生活を送れるよう心がけていきたいと思います。

(KT)